

主の御名を讃美します。

いつも祈り、覚えてくださりお礼申し上げます。今回のメルマガは私の家族の出来事について書かせていただきます。

### 〈急遽日本へ〉

7月15日、セミナーに参加していたスペインから急遽札幌に戻りました。

14日早朝3時半、日本から私の携帯電話に、母が急逝したという知らせが入りました。死因は心筋梗塞心不全です。急いで荷物をまとめ、タラゴナからバルセロナ空港に向かいました。一日半がかりで、15日の夜、札幌の実家に到着することができました。飛行機の中では、母の素晴らしさが思い起こされ、ほんとうに立派な母だったと、悲しみよりも感謝と誇りで一杯になって、涙が溢れてきました。

実家に到着すると、父と妹と三人で、母の亡骸の前で（実に美しい死に顔でした！）、父は最高の妻だったと言い、知的障害者の妹は、お母さんの子どもに生まれてよかった、素晴らしいお母さんだったと言いました。私も同じ思いだったので、私たちの会話は、涙を流しながらも悲壮感はありません、感謝いっぱいの一夜をすごしました。

### 〈葬儀〉

16日に通夜、17日に告別式が行われました。

私が札幌に到着した日、驚いたことに、父は、葬儀で私のCD「たましいの歌」をかけることに決めてあると言いました。亡くなる前、母が毎日このCDを聴いていたというのです。それまで、母は私のCDにはあまり興味を示していなかったことを知っていたので、驚きました。そして、父が特別に葬儀場において、このCDを流してもらうことにしたのでした。（写真：母の葬儀にて、父と妹と）



父が喪主で私が施主でしたが、父は、葬儀関係者に、「長女はクリスチャンですから」と言って、お焼香や、清めなどをしなくていいように取り計らっておいてくれました。

そして神をたたえる歌は、お坊さんの読経の時以外、ずっと流されました。葬儀に参列して下さったクリスチャンの中には、仏式の葬儀なのに、神の大きな臨在を感じた、とおっしゃって下さった方もいらっしゃいました。その後、CDの讃美は大きな反響を呼び、主は母の葬儀を伝道の場と変えてくださいました。感謝！

### 〈母のこと〉

母は、昨年10月に風邪から引き起こした肺炎のために入院、その後、熱が下がらず、入院が三ヶ月も続きました。

このときほど、母の魂の救いのために祈ったことはありません。11月の下旬ですが、ある日、心

に深い平安が与えられ、母はきっと治る、という確信のようなものが与えられました。それ以来、祈るたびに平安が与えられていたのですが、母はなかなか回復できず、今年の1月に入ってからようやく退院することができました。そして、今年6月に今度は腎不全になり、人工透析を受けるようになりましたが、7月8日に退院できた矢先の急死でした。

家での療養中、母がずっと私のCDを聴いていたということ、母の死に顔が実に美しかったこと、葬儀がこのように祝福されたこと、私が昨年祈りの中で平安を与えられたこと、偶然、母が亡くなった時間に、私のCDをかけながら母のために祈っていたクリスチャンの方のコメントなど…これらのことを考え合わせると、母はすでに主を救い主として心に受け入れていたのではないのだろうか、と思わされました。しかし今となっては確認することもできませんし、これは主のみがご存知です。

### 〈父と妹の救いのためにお祈りください〉

父は母の死以来、神様と天国という言葉を連発しています。この間まで、父は私に向かって、「お前は二言目には神様、神様と言う。お前の友人がそのお前の姿を見て笑っているのを知らないのか！」と憤慨していたのです。そして、「自分が死んだ時には、キリスト教式葬儀をしてよい、その時には、母のお骨も教会の納骨堂に移して欲しい、自分も5年後ぐらいには洗礼を受けるかもしれない」などと語っており、奇跡のようなことが起こっています。けれども父はまだ、イエス様が自分の罪のために十字架にかかって死んでくださったことが理解できていません。しかし主は父の心を大きく開いてくださいました。

妹は、障害者のためのワークセンターでタオルの袋詰めをしています。先日、センターを見学しに行き、初めて、彼女がどのようなところで働いているのか見ることができました。母の死後も、元気でよく働いてくれていると、施設の先生たちも感心しておられました。父が救いに至れば、妹も父に従うと思います。彼女は、これまで母の言うことに従ってきましたし、これからは父の言うことを聞くようになると思うからです。ですからまず、父が一日も早く主イエスを救い主として受け入れることができますようお祈りください。

### 〈現在の状況とこれからの予定〉

母の葬儀後の事務処理、家の整理・家事などに、父も私も大変忙しい毎日です。週末は妹と食事に行ったり、彼女のための買い物などをしています。

8月13日に成田へ行き、14日の早朝にアムステルダム経由でドイツへ戻る予定です。その後は、今年の予定通りの活動に入ります。次回はドイツへ戻ってから皆さんに連絡させていただこうと思っています。どうぞ、私が、毎日のすべてを愛と信仰と主の導きの中で行う事ができますようにお祈りください。

この夏、皆様の健康が守られますように、そして、心に主の平安がいつもありますように、お祈りいたします。

主にあって

工藤篤子